

住み手とともに歩む建築士会を目指して

・発 足

・昭和32年5月15日、建築士法の一部改正が行なわれ、新たにおよそ8万人の二級建築士が誕生しました。以前から、日本固有の風土に根ざした建築を守り、住み手と共に歩む魅力ある建築士会をつくりたいと考えていた有志は、この新制度発足を機に新しい建築士会設立の気運が高まり、初代会長に故今和次郎氏（早稲田大学教授）を迎えて、昭和33年9月6日、全日本建築士会設立総会が開かれました。

この総会には、建築に携わる文化人、学者、設計者をはじめ、全国建設労働組合連合会（全建総連）傘下の大工技能者や国鉄、自治体、日建協、住宅公団、建設省等の技術者も多数集まり、翌昭和34年3月6日には、建設省から一般社団法人の認可を受け、故竹内芳太郎氏（元東京教育大教授）を会長に、正式に一般社団法人全日本建築士会がスタートしました。その後も歴代会長のもと、一貫して在来工法の継承と新工法の開発に努め、木造建築文化の発展をめざしてさまざまな活動を進めてきました。

いうまでもなく木造建築文化は、日本が世界に誇る貴重な財産です。その継承と発展に向かって、多くの建築士の皆さんが全日本建築士会とともに歩まれることを期待しています。

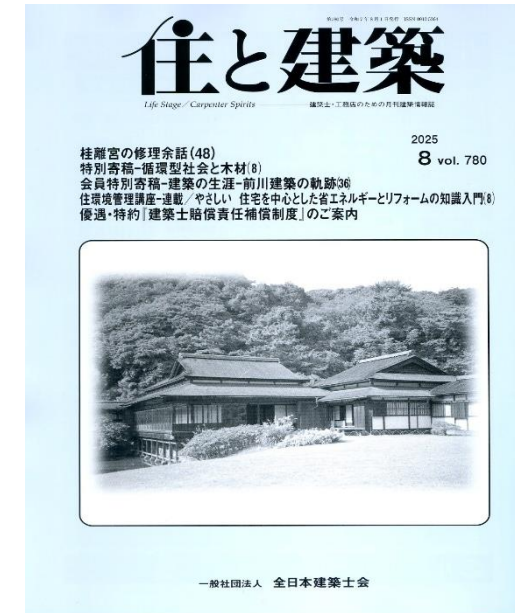
・建築行政への提言

・全日本建築士会では、その創設の趣旨を踏まえ、建築文化の進展に係わる様々な公益事業を実施し、また、建築行政への提言も積極的行なっています。公益事業としては、法令改正、新技術開発に係わる啓蒙活動や良質な建築士を育成するという本会設立主旨に根ざした一級、二級建築士受験講座、一級、二級建築施工管理技士講座や住環境管理士会員講座を実施しています。また、伝統木造建築に係わる伝統的景観の保存、伝統的技術・技能の継承・育成、海外建築関係団体との交流を積極的に進めています。

会 誌 「住まいと建築」

一般社団法人全日本建築士会のスタートとともに発行されている月刊誌「住と建築」は、通巻発行721(2020年9月)を超えました。全国の会員を結ぶものとして、誌上では建築技術講座や工務店経営実務関連の情報、建築界のニュース、新たな法令の解説や行政の動き、さらに会員の作品紹介や各支部の活動報告などが網羅されています。

最近では、阪神大震災の現地レポートや、木造住宅の耐震性能向上を考慮した設計施工のポイントの解説をはじめ、住宅価格低減の動きや輸入住宅に関するレポート、地球環境問題と木材利用についての考察、さらに、高齢者にやさしい住まいづくりの解説、桂離宮の紹介、超長期200年住宅など、タイムリーな特集記事・連載記事を掲載しています。会員外の方からも購読の申し込みをいただくなど、木造建築関連の情報や文化にテーマを絞った編集が注目を集めています。



2025年 8月号 掲載記事

- ・ 桂離宮の修理余話(48)
- ・ 特別寄稿-循環型社会と木材(8)
- ・ 会員特別寄稿-建築の生涯-前川建築の軌跡(36)
- ・ 住環境管理講座-連載/住宅を中心とした省エネルギーとリフォームの知識入門(8)
- ・ 優遇・特約「建築士賠償責任補償制度」のご案内

タイとの交流

•令和4年

本会は、タイにおける伝統木造建築の保存・修復の交流を目的に、令和4年12月、北部タイの建築士会や大学建築学部等と、基本的な情報交換のミーティングを実施した。

タイには「サイアム建築士会 The Association of Siamese Architect (ASA)」という建築士の全国組織があり、タイ北部・東北部・南部の3地方に、それぞれ地方支部を有しており、北部タイの中心都市である古都チェンマイには北部支部である「ランナー建築士会」が存する。

バンコクの全国本部のサイアム建築士会が行う事業のほかに、各支部が行う独自の事業も展開されている。建築士会北部支部の運営は、建築実務者と大学教員が、ほぼ半数ずつ参画している。

また、北部タイには建築専攻を置く大学が5大学あり、教員は大学を超えて互いに密接に連絡する関係にある

サイアム建築士会のメンバーとの会議では、今後の全日本建築士会と北部タイの諸団体との連携の可能性について、「全日本建築士会のような海外の実績ある団体と連携できることはタイ側にとって光栄であり、日本のさまざまな知見が連携を通して導入できるとしたら、今後のタイの建築実務と教学の双方の発展にも極めて有益に違いない。ぜひ日の目を見るように期待したい」との意見が出された。

チェンマイを中心とする北部タイは、かつては「ランナー王国」と呼ばれる、バンコクとは別の王国があり、チェンマイはその都であったことから、古い寺院をはじめ伝統建築も多く点在している。その研究・保存や修復・街並みの維持なども地域の建築上の課題となっているが、様々な点でまだまだ十分ではなく、これらの点で全日本建築士会と連携できる部分は、多くあるのではないかとこのことで、また、今後の動向として、伝統建築の集積に富む古都チェンマイを世界遺産に申請しようとする動きもある。

チェンマイの外にも、北部タイで比較的木造建築物が残されている近隣のランパーン県とプレー県（チェンマイから200キロ）にも足を運び、伝統木造建築物を視察すると同時に、保存に志のある現地の建築士等とのヒアリングを兼ねた公式のミーティングが開催された。

令和5年

令和5年11月には、主に以下の伝統木造建築物を視察した。

- ・チェンマイ大学 ランナー・トラディショナルハウス・ミュージアム
(移築された伝統的古民家等を野外展示)
- ・市内の有名寺院の一つである、ケート寺院の伝統木造建築物
- ・建築士会との会合後に、チェンマイ旧市街のいくつかの寺院を視察した

その他、プレー県・ランパーン県における7か所の伝統木造建築物を視察した。特に、ランパーン県における、タイと西洋の折衷建築であるジンジャー・ブレッド様式と呼ばれる建築物は他に類例のない建築物として、世界遺産にも登録の機運が高まっている。なお、タイのコロニアル建築は、木造の建物に素焼きの屋根瓦、風の通気を確保するため窓の上部やドア・パネルに施された雷文細工、日陰をつくり出す屋根のついた長いバルコニー、雨期の雨よけ等が建築上の特徴となっている。

その後、国立チェンマイ大学建築学部を訪問し、更に北部タイ建築士会役員とのミーティングを行い、伝統木造建築の保存に係わる有益な意見交換をすることができた。なお、古都チェンマイでは、伝統木造建築を改修してホテルやレストランに活用している種々の優れた実例を見ることができ、非常に参考となる機会となった。今回の有益な成果を経て、今後、できる限り当地の関係機関の要望等を踏まえ、持続的に発展できることを目途として、伝統木造建築に係わる技術交流を発展させて行くことが望まれる。

日タイ伝統木造建築交流のための調査では、伝統木造建築の集積地でもあるタイ北部、特にプレーとランパーン、チェンマイにおける貴重な伝統建築を視察することができ、また、各地の関係者と貴重な意見交換をすることができ、今後に向けて大変意味のある機会となった。



本会と北部タイ建築士会との伝統木造建築に係わる情報交換会



ミーティング後の本会会長とチェンマイ大学建築学部長（ユネスコ委員）との記念品の交換会

ベトナムとの交流

- 2012年11月12日に開かれた、本会とベトナムフエ遺跡保存センターとによる「日越伝統木造建築会議」は、本会の設立趣旨でもある伝統木造建築の継承・進行という視点に、近年関心の高まっている環境保全・東南アジアという視点を加え、伝統木造建築の集積地で世界遺産登録の地としても知られるフエで永らく保全修復工事の技術協力に携わってこられた中川武早稲田大学教授の協力を得て開催が始まった。

2016年（平成28年）9月に日越独仏韓5カ国による国際会議を開催し、本会の3人の理事が日本の伝統的建築郡、フエの貴族公邸「延福長公主祠」の調査報告、古都フエについて公演を行った。

2018年（平成30年）に、旧王朝の保存・管理などを行う同国公的機関「フエ遺跡保存センター」と新たな協定を結び、技術協力や人材育成に協力し、世界的に貴重な文化遺産である伝統木造建築の集積地であるフエの歴史的建築物の継承につなげていくことを目途としている。



王宮午門 2016年（上）・2012年（下）撮影



「日越伝統木造建築交流会議」



伝統木造建築の集積地であるフエの歴史的建築物の継承につなげていくことを目指して、新たな協定を結びました。

令和6年度 東京都省エネ再エネ住宅普及促進事業 実施内容

★本会東京地区会員、本会東京地区住環境管理士会員(主として建築士事務所、工務店の従事者等)等に対する省エネルギー・再エネルギー住宅の知識と実務に係わる普及啓発事業を行った。(対象者 約1,000名)

研修テーマ:「住宅を中心とした省エネルギーとリフォームの基礎知識」

★上記について、テキストに基づく講義を2回に分けてWEBにて実施し、実務従事者に対する普及啓発を図るものとした。

1回目講義:令和7年1月17日(金)配信

2回目講義: 同 年2月 7日(金)配信

※テキスト執筆 及び 講義: 田中 毅弘 氏

全日本建築士会理事、工学博士、Ph.D.(人間行動学博士)

※講義時間は各回ともに2時間程度

※各回ともに、配信後は、同年2月28日迄繰り返し視聴できるものとした。

★尚、当会実施の本普及促進事業は、令和4年度より開始し、下記内容にて実施しております。

令和4年度:「総論」

令和5年度:「住宅の省エネルギー性能評価の考え方」

令和6年度:「住宅を中心とした省エネルギーとリフォームの基礎知識」